

フォーラムⅣ*フットパス同時開催

初の試みⅡ雪原アートにも挑戦

NPO法人設立を目指す「アグリルネッサンスフォーラム」の第四弾（ふらつと南幌主催）が、二月十五日、月例フットパスと同時に開催された。南幌ビューローに集まった約四十人は車で一路、新夕張川河畔へ。ランドスケープアーティストの小川智彦さんの指導で、自分の足跡で描く「雪原アート」に挑戦（出来栄はいまいち）。甘酒で体を温めたのちに「かんじきフットパス」に出発した。ビューローで食事（キムチラーメン）を堪能。二時半からは「フォーラムⅣ」とまる一日楽しんだ。フォーラムではランドスケープアートについて説明後、エコ・ネットワーク代表の小川 巖氏の基調講演、パネルディスカッション。参加者から多くの意見・感想も出された。

巖さん流フットパスの極意



フットパスとの出会いは林美香子さんが企画した「ピーターラビットのふるさとを巡るツアー」に参加したこと。単なるハイキングコースと想っていた「フットパス」に出会った。英国には何泊も出来るパスが各地にあり、すっかりはまってしまった。二〇〇二年から毎年英国を

歩くツアーを企画している。英国のパスは基本的に整備されていない。切り立った崖にも柵はなく、「すべて自己責任」との発想。だが、道標は完備、迷うことはあまりない。道内も盛んだ。先日、全国フットパス協会が立ち上がった。これから勢いは急だ。「てくてく道」との感覚で気軽に安く健康になろう。地域と地域、地域と人、人と人をつなげる道である。加えて「食べて飲む」という「楽しみ」を組合せることが大事だが、農業体験や歴史遺産の活用もあれば最高。長い時間をその地域で過ごすことで、地域活性化にも寄与出来き、メリットは大きい。反面、課題もある。マップ、トイレ、道標の整備はもちろん、コース上の所有者との調整も。南幌さんはかなりのレベルにいる。「ホップ後半」で、地元の努力の如何でジャンプする。

二、三年練習続け「南幌名物」に



一列に手をつないで、ゆっくり前進
自分の後ろに「道」はできる

新夕張川にある遊遊館前の河川敷の雪原に「ランドアート」を描こうと、三十余名が手をつなぎ、横一列に並んだ。微笑ましい姿。小川智彦氏の指導で一歩一歩雪原を踏みしめて行く。モザイク模様を作っているようだ。上から見ると、段々広がりて行ったのか、設計図通りに行かない。靴に色でも付けなければ、ちょっと目では判読できないものとなってしまう。「初体験じゃ、こんな

パネルディスカッション 「歩いて、感じて、考えるー」 フットパスを生かした環境づくり

パネリスト

- *エコ・ネットワーク代表 小川 巖氏
 - *道開発協会 主任研究員 草刈 健氏
 - *水土里情報センター長 横山林太郎氏
- コーディネーター

NPOふらつと南幌設立代表 濱田暁生

「ランプラーズ協会」の報告は歩くことが医療費軽減することを科学的に立証した。米国でもスポーツ医療、予防医学特に「うつ病」に効果があるとしている。本州では観光面が主流だが、地域と人の元気・健康をアピール、楽しく歩こう。フラットな南幌のシンプルさを独創的な「しかけ」で売り込む必要がある。オランダでは十年に一度「花のオリンピック」を開き、その後宅地として売り出している。ご参考に！



もの」と小川さん。フォーラムの解説では「二、三年練習を積み重ね南幌の名物になる可能性」を強調した。「ランドアート」終了後、大吟醸の酒かすで作った「甘酒」で体を温め、いざ、「かんじきフットパス」に出発。三重湖を突っ切る予定が、前日の好天でコースを変更。ほとんど「かんじき」を使用する必要がなかったという。では次回チャンスということに。

最終章フォーラム5
三月十五日(日)開催